

京大研観測所 公立大に移転

宮崎市 地域防災の研究推進へ



宮崎市加江田から移転した京都大防災研究所
宮崎観測所が入る宮崎公立大・凌雲会館 15
日午後、同市

宮崎市加江田の京都大防災研究所宮崎観測所（伊藤喜宏所長）が今春から、地震や地殻変動に関する観測施設など一部機能を残し、同市の宮崎公立大に移転した。同大学や市と連携し、地域防災力を高める研究などを推進する。15日に同大学で開所記念式典があり、関係者約30人が宮崎観測所の新たな門出を祝った。

同観測所は京都大の遠隔地施設として1974（昭和49）年、同市加江田に開設。地震が頻発する日向灘や多数の火山が分布する南

九州で観測を担い、地震や地殻変動を研究してきたが、立地的に災害時のリスクもあり、数年前から移転を検討していた。

同研究所以は近年、宮崎公

立大と学術交流の連携協定を、宮崎市と自然災害対応に関する連携協定を結んでいる。移転を機にさらに連携し、地域防災強化につながる応用研究を進める。

式典で、同研究所の渦岡良介所長は「世界レベルの研究成果を発信し続けられる拠点となることを期待したい」とあいさつ。宮崎公立大の辻利則学長は「（関係機関が）さらに連携し、地域の皆さんと共に学び、考え、災害に備えたい」と話した。（金井佑介）